

「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響 ——授業アンケートとレポートの分析を中心として——

吉 松 梓

I. はじめに

経済産業省は、団塊世代者の定年退職による産業人材の減少による2007年問題を背景とし、若手人材の確保・育成を重要な課題と捉え、2006年に「社会人基礎力に関する研究会」中間取りまとめ¹⁾を報告した。そこでは「社会人基礎力」を「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とし、「前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）」、「考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）」、「チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）」の3つの能力、12の要素からなるものとしている。また、2012年に取りまとめられた中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」においては、学士課程における学びを、従来のような知識の伝達・注入を中心としたものから、能動的学修（アクティブ・ラーニング）にシフトさせていくことを求めている²⁾。一方、現代の大学入学者は、社会経済の変化の中で、自分の将来への見通しや、大学進学が動機が曖昧になっており、自己認識及び将来選択が曖昧な点で共通しているという³⁾。

このような状況を踏まえ、本学では2013年より「駿大社会人基礎力」として「基礎的な力（読解力、文章力、情報収集能力）」、「考える力（論理的・多面的思考力、情報処理能力、理解力、創造的発想力）」、「行動に移す力（主体性、行動力・実行力）」、「協働する力（常識力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、協調性）」、「総合的な力（課題発見能力、計画力、問題解決能力）」の5つの力、16の能力要素を定め、その育成やキャリア教育等に特色を持つ新カリキュラムを実施している。そして、すべての科目をキャリア教育にというコンセプトの元、シラバスにおいて目標とする駿大社会人基礎力の内容を明示することを求めている。また、教育の質を向上するための方策としてアクティブ・ラーニングやアウト・キャンパス・スタディの実施を推進している。

さて筆者は、野外教育を専門として研究および授業実践を行っている。野外教育とは、自然の中で組織的・計画的に一定の教育目標をもって行われる野外活動・自然体験活動の総称⁴⁾であり、青少年に対する多様な教育的アプローチがなされている。大学生を対象とした実践研究報告も多くみられ、「自己概念」の向上⁵⁾や「社会性」の向上⁶⁾、「生きる力」の向上⁷⁾等が明らかになっているほか、近年では「社会人基礎力」に関する研究報告もみられる⁸⁾。また、その実践方法の多くが体験学習サイクル(図1)の、1. 実際の体験, 2. ふりかえりを含む観察, 3. (抽象的な)概念化, そして4. 積極的な実験(適用)というプロセスを学びの基本としており、この方法はアクティブ・ラーニングの形態の一つと考えられる。加えて、地域の自然環境が授業の舞台となることから、アウト・キャンパス・スタディ科目の一つであるとも捉えられる。

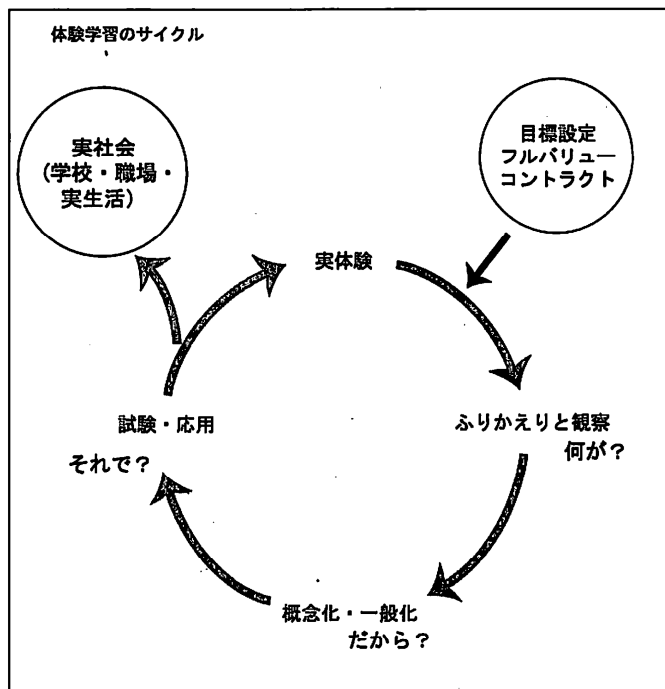


図1 体験学習サイクル

そこで本研究では、筆者が担当している本学の共通教育科目「健康・スポーツ実習」および「健康・スポーツ演習」の種目「アウトドア」の授業を対象に、学生の

授業アンケートやレポートから、「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1. 対象

本研究の対象は、本学の共通教育の体育の科目の内、2014年度に筆者が担当した大学1年生対象の「健康・スポーツ実習」の種目「アウトドア」（以下、「実習アウトドア」）の4クラス101名（男性83名、女性18名）と、大学2年生以上が対象の「健康・スポーツ演習」の種目「アウトドア」（以下、「演習アウトドア」）の2クラス19名（男性15名、女性4名）の計120名（男性98名、女性22名）であった。以下に対象の曜日時限、学部、履修人数等の詳細を示す（表1）。

表1 対象の詳細

授業・種目名	対象学年	曜日時限	対象学部	履修人数 (内：女)
実習アウトドア	1年次	月曜2限	経済、メディア、現代	26 (0) 人
実習アウトドア	1年次	火曜3限	法、経済、現代	20 (0) 人
実習アウトドア	1年次	金曜1限	経済、現代	15 (2) 人
実習アウトドア	1年次	金曜2限	メディア、心理	40 (16) 人
演習アウトドア	2年次以上	木曜1限	全学部	6 (2) 人
演習アウトドア	2年次以上	金曜3限	全学部	13 (2) 人

2. 実施方法

(1) 授業の概要

本研究の対象となった「実習アウトドア」および「演習アウトドア」は両者とも通年の授業である。授業の内容は、年間を春学期2ターム・秋学期2タームの全4タームに分け、春学期前半は主にプロジェクトアドベンチャー（以下、PA）⁹⁾のアイスブレイク（緊張をほぐす）からイニシアティブ（課題解決）のアクティビティ、春学期後半はカヌー、秋学期前半はハイキングやオリエンテーリング、秋学期後半はクライミングを行った。これに加えて2年次以上が対象の「演習アウトドア」では地域の専門講師を招いたアウト・キャンパス・スタディとして、日帰り登山と外岩で

のクライミングを行った。また授業の目標として「実習アウトドア」では、主体性やコミュニケーション力など駿大社会人基礎力の「行動に移す力」、「協働する力」の涵養を目的とした。「演習アウトドア」では、「行動に移す力」、「協働する力」に加えて、登山やクライミングなどのアウト・キャンパス・スタディを実施することにより、計画力や課題解決力など「総合的な力」の育成を目指した。

以下に年間の授業内容を示す（表2）。

表2 年間の授業内容

時期	活動名	内容	ねらい
春学期 前半	プロジェクト アドベンチャー (PA)	主に学内の里山において、PAのアイズブレイク（緊張をほぐす）、トラスト（信頼構築）、イニシアティブ（課題解決）等のアクティビティを行った。	主体性、コミュニケーション能力、等
春学期 後半	カヌー	学内のカヌー池（調整池）および入間川において、カヌーの基礎から応用、水上で安全に活動する方法を学んだ。	スキル獲得、リスクマネジメント能力、等
秋学期 前半	ハイキング・ オリエンテー リング	学内の里山や大学周辺の加治丘陵において、グループでのハイキングやオリエンテーリング（ロゲイニング）を行った。	行動力・実行力、協調性、等
秋学期 後半	クライミング	主に学内のクライミングウォールや体育施設において、ロープ等の道具を用いずに行うボルダリングや、ロープ等を用いる懸垂下降を行った。	スキル獲得、課題解決能力、等
アウト キャン パス スタ ディ	登山・クライ ミング	2年次以上の演習アウトドアにおいて、半日から一日にかけて飯能地域のフィールドでの登山やクライミングを行った。	計画力、課題解決能力、等

(2) 授業実践上の工夫

体験学習サイクルをベースとしたアクティブ・ラーニングを実践するため、授業の進行方法として、各アクティビティを実行した後には、教員がファシリテーターとなって、まず「何が？」起こったのか、そのときに感じたこと・考えたことを自由に発言してもらった。その上で、その体験を次の活動にどのように応用するか

「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響
 —授業アンケートとレポートの分析を中心として—

ループディスカッションをした。このような学習の過程をスムーズに進行するため、クラスを8~10人程度の小グループに分け、年間を通してグループでの学習形態とした。

また、毎回の授業の後にはふりかえりシート（図2）に記入させ、体験学習サイクルの過程と学習の深化を促した。加えて年度末には授業の感想文やレポートを提出させ、学習の成果を確認するためのツールとして使用した。

ふりかえりシート

学籍番号: XXXXXXXXXX

6月13日

○行動に移す力

1) 主体的に授業に臨めたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

2) 考えて行動し実行できたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

○協働する力

3) 授業のルールやマナーを守れたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

4) 積極的に発言できたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

5) コミュニケーションをとれたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

6) グループに協力的だったか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

○体調等について

7) 体調は良かったか? はい (5) 4 - 3 - 2 - 1 いいえ

8) 充分運動できたか? はい 5 (4) 3 - 2 - 1 いいえ

9) 楽しかったか? はい (5) 4 - 3 - 2 - 1 いいえ

感じたこと、考えたこと、を自由に記述してください

今日は人数は少ないけど、人数が合わない
 なりに意見を話し合えて、行動にうつせた
 ので、とても良かったです。自分もだんだん good!
 発言できるようになってきたので、この調子で
 がんばりたいです。




図2 学生が記入したふりかえりシートの例

3. 調査方法

(1) 授業アンケートの駿大社会人基礎力項目の分析による量的手法

「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響を把握するために、

まず量的手法として、本学が全授業で実施している授業アンケートの中の駿大社会人基礎力に関する項目を用いた。この項目は「この授業を通じてどの駿大社会人基礎力が身につけてきていると感じますか？」という質問に対して、列挙されている駿大社会人基礎力の5つの力の中から3つまで回答可能（ない場合は記入不要）という内容であった。収集したデータは、単純集計により「実習アウトドア」と「演習アウトドア」それぞれと体育科目全体の比較を行った。

(2) テキストマイニングによる授業の感想文とレポートの質的分析

次に質的手法として、1年次の「実習アウトドア」の最終授業で提出された授業の感想文と、2年次以上対象の「演習アウトドア」で授業終了後に提出されたレポートを質的データとして用いた。「実習アウトドア」の感想文は、「健康・スポーツ実習『アウトドア』の1年間の授業をふりかえって、感じたこと、考えたこと、学んだことを自由に記述してください」という教示をし、学生1人につき200～300字程度の記述回答が得られた。「演習アウトドア」のレポートは、「健康・スポーツ演習『アウトドア』の1年間の授業をふりかえって、以下の観点から感想をまとめること。①印象的だったエピソードを一つ挙げ、そのときに何を感じ、どう考えたかを述べる。②授業全体を通して、感じたこと、考えたこと、学んだことについて述べる。③授業で学んだことを、今後の生活にどう活かすかについて述べる。」という教示をし、学生一人につき800～1000字程度の記述回答が得られた。

記述文のデータ分析には、テキストマイニングの分析ソフト Mac 版 KHCoder を使用した。

4. 倫理的配慮

対象者には、授業時間内に本研究の趣旨を口頭で説明し、研究への協力は自由意思でありいつでも取りやめることができること、協力の有無によって成績評価等に不利益が生じないことを保障した。その上で、感想文やレポートの空欄に、全面的に研究に協力できる場合は○を、個人が特定されず直接文章等が引用されないなら協力できる場合は△を、協力できない場合は×を記入してもらった。

Ⅲ. 結果と考察

1. 授業アンケートの駿大社会人基礎力項目の分析結果と考察

(1) 「実習アウトドア」の駿大社会人基礎力

まず、「実習アウトドア」と体育科目全体の駿大社会人基礎力の結果を図3に示す。

「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響
 —授業アンケートとレポートの分析を中心として—

なお「実習アウトドア」の回答者数は72名であり、図3のグラフでは回答者数の内その項目を選択した人数の割合を示している。

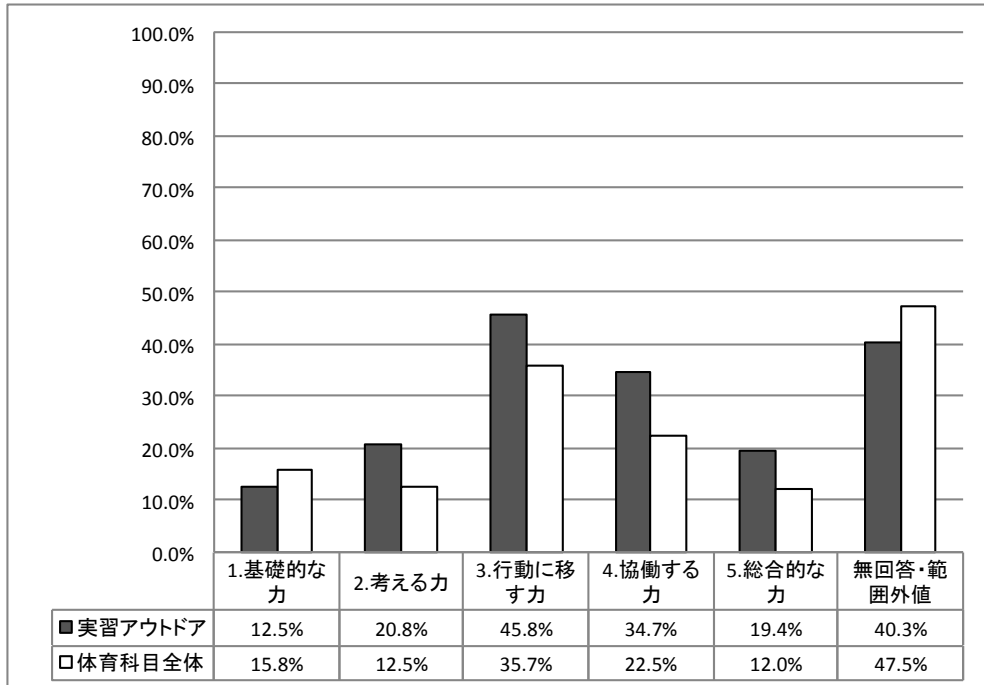


図3 「実習アウトドア」の授業アンケート社会人基礎力の結果

この結果、「実習アウトドア」では、駿大社会人基礎力の「考える力 (20.8%)」「行動に移す力 (45.8%)」「協働する力 (34.7%)」「総合的な力 (19.4%)」の4つの項目で体育科目全体の値を上回る結果となった。特に、「行動に移す力」と「協働する力」は体育全体と比較して10ポイント以上上回る結果となった。この理由として、カヌーやクライミングなどこれまでにやったことのない種目に挑戦したことや、グループワークを中心とした授業展開を行ったことが考えられ、授業の目標が概ね達成できたと推察される。

(2) 「演習アウトドア」の駿大社会人基礎力

次に、「演習アウトドア」と体育科目全体の駿大社会人基礎力の結果を図4に示す。

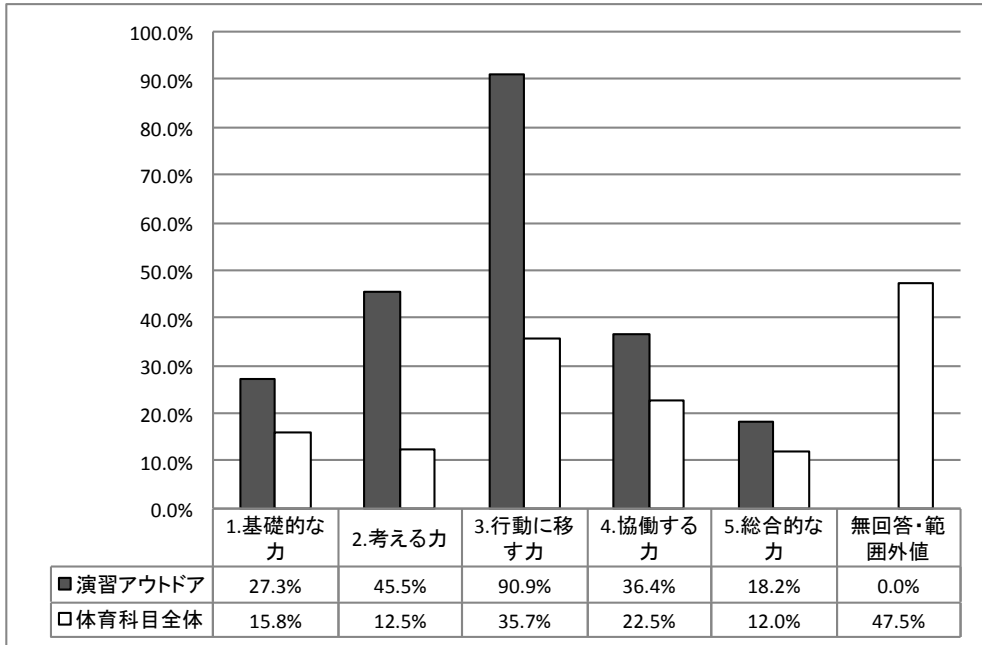


図4 「演習アウトドア」の授業アンケート社会人基礎力の結果

この結果から、「演習アウトドア」では、駿大社会人基礎力の5つの項目すべてにおいて、体育科目全体の値を上回る結果となった。特に「行動に移す力 (90.9%)」においては、回答者のほとんどが成果を実感している結果となり、アウト・キャンパス・スタディを含めた実践的な授業内容が功を奏したと考えられる。また、「考える力 (45.5%)」についても、およそ半数の学生が回答しており、ディスカッションやふりかえりシート等を用いた体験学習サイクルの導入が一定の成果を発揮したものと推察される。ただ、授業の目標に掲げていた「総合的な力 (18.2%)」については、顕著な差が認められず、今後の授業改善の課題としたい。なお、「演習アウトドア」の授業アンケート回答者は11名と少数であったため、検討は参考の範囲を超えないと考える。

2. テキストマイニングによる授業の感想文とレポートの質的分析

(1) 「実習アウトドア」の感想文の分析

まず KHCoder を用いて、「実習アウトドア」の感想文として得られた72名の記述データの前処理を実行した。文章の単純集計の結果、480の文が確認され、総抽出語数は9,384（うち使用された語3,564）、異なり語数は1,130（うち使用された語907）であった。

次に、感想文の内容を特徴付ける頻出語（出現数5以上に設定）上位96語をリストアップした（表3）。さらに、この頻出語に対して KHCoder の共起ネットワーク（語と語との関係を描くことを可能とする）を用いて、頻出語が互いにどのように結びついているのかを描いた（図5）。図が煩雑になりすぎないように共起関係を調整した結果、Jaccard 係数0.23以上で、57語、67の共起関係が抽出された。なお、図5は共起関係（Jaccard 係数）が強いほど太い線で描画されており、出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。

表3 「実習アウトドア」感想文の頻出語（出現数5以上）上位96語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
楽しい	107	運動	15	話す	10	初め	6
カヌー	88	楽しむ	15	違う	9	人生	6
授業	84	他	15	高校	9	池	6
アウトドア	78	機会	14	歩く	9	たくさん	5
一年間	48	懸垂下降	14	遊ぶ	9	チャレンジ	5
体験	45	川	14	コミュニケーション	8	バランス	5
経験	40	多い	14	考える	8	学部	5
スポーツ	36	グループ	13	春	8	苦手	5
自然	30	最後	13	選択	8	個人	5
クライミング	29	使う	13	大切	8	好き	5
山登り	26	少し	13	友達	8	高い	5
自分	26	知る	13	夏	7	時間	5
最初	23	学ぶ	12	楽しめる	7	秋	5
難しい	23	見る	12	興味	7	進む	5
初めて	21	色々	12	健スポ	7	達成	5
協力	20	大学	12	今後	7	地図	5
普段	20	登山	12	実際	7	仲良く	5
山	19	ロッククライミング	11	触れる	7	日常	5
人	19	学期	11	先生	7	怖い	5
一番	18	行く	11	選ぶ	7	様々	5
今	17	思い出	11	大変	7	落ちる	5
出来る	17	特に	11	不安	7		
登る	17	受ける	10	本当に	7		
良い	17	体	10	ゲーム	6		
感じる	16	体育	10	印象	6		

になったこと。その経験の中で、“体”を“使う”、“考える”“出来る”といった実感が生まれ、「行動に移す力」が身についたという認識に繋がっていたのではないかと推察される。次に“人”に関連して、“話す”“協力”“仲良く”“大切”などの語が結びついていることから、人とのコミュニケーションやグループで協力することを授業で得た学びとして捉えており、これらは駿大社会人基礎力の「協働する力」を示す内容に当てはまるものだと捉えられる。

(2) 「演習アウトドア」のレポートの分析

同様に KHCoder を用いて、「演習アウトドア」のレポートから得られた15名の記述データの前処理を実行した。文章の単純集計の結果、320の文が確認され、総抽出語数は8,321（うち使用された語3,147）、異なり語数は1,275（うち使用された語1,028）であった。

次に、感想文の内容を特徴付ける頻出語（出現数5以上に設定）上位109語をリストアップした（表4）。さらに、この頻出語に対して KHCoder の共起ネットワーク（語と語との関係を描くことを可能とする）を用いて、頻出語が互いにどのように結びついているのかを描いた（図6）。図が煩雑になりすぎないように共起関係を調整した結果、Jaccard 係数0.33以上で、73語、58の共起関係が抽出された。なお、図6は共起関係（Jaccard 係数）が強いほど太い線で描画されており、出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。

表4 「演習アウトドア」レポートの頻出語（出現数5以上）上位109語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	86	生活	11	他	7	頑張る	5
アウトドア	55	大変	11	体	7	気持ち	5
クライミング	29	違う	10	知る	7	呼ぶ	5
スポーツ	28	簡単	10	特に	7	考え	5
自然	26	危険	10	いろいろ	6	行く	5
自分	26	今	10	ほか	6	行動	5
課題	23	最後	10	チャレンジ	6	参加	5
印象	22	山登り	10	メンバー	6	乗る	5
登る	21	残る	10	楽しむ	6	身	5
山	20	重要	10	嬉しい	6	人生	5
人	20	仲間	10	貴重	6	先生	5
一年間	19	普段	10	距離	6	地図	5
楽しい	18	運動	9	高い	6	登山	5
挑戦	18	協力	9	実際	6	登頂	5
カヌー	17	難しい	9	初めて	6	必要	5
達成	17	歩く	9	水	6	不足	5
出来る	15	教える	8	声	6	様々	5
経験	14	最初	8	全体	6	落ちる	5
体験	14	持つ	8	大切	6	良い	5
学ぶ	13	多い	8	壁	6		
使う	13	動かす	8	本当に	6		
活動	12	面白い	8	アドバイス	5		
機会	12	グループ	7	カヤック	5		
受ける	12	コミュニケーション	7	ゲーム	5		
受講	12	ボルダリング	7	一つ	5		
クリア	11	行う	7	一緒	5		
一番	11	今回	7	可能	5		
考える	11	少し	7	家族	5		
今後	11	成功	7	覚える	5		
準備	11	足	7	学べる	5		

「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響
 —授業アンケートとレポートの分析を中心として—

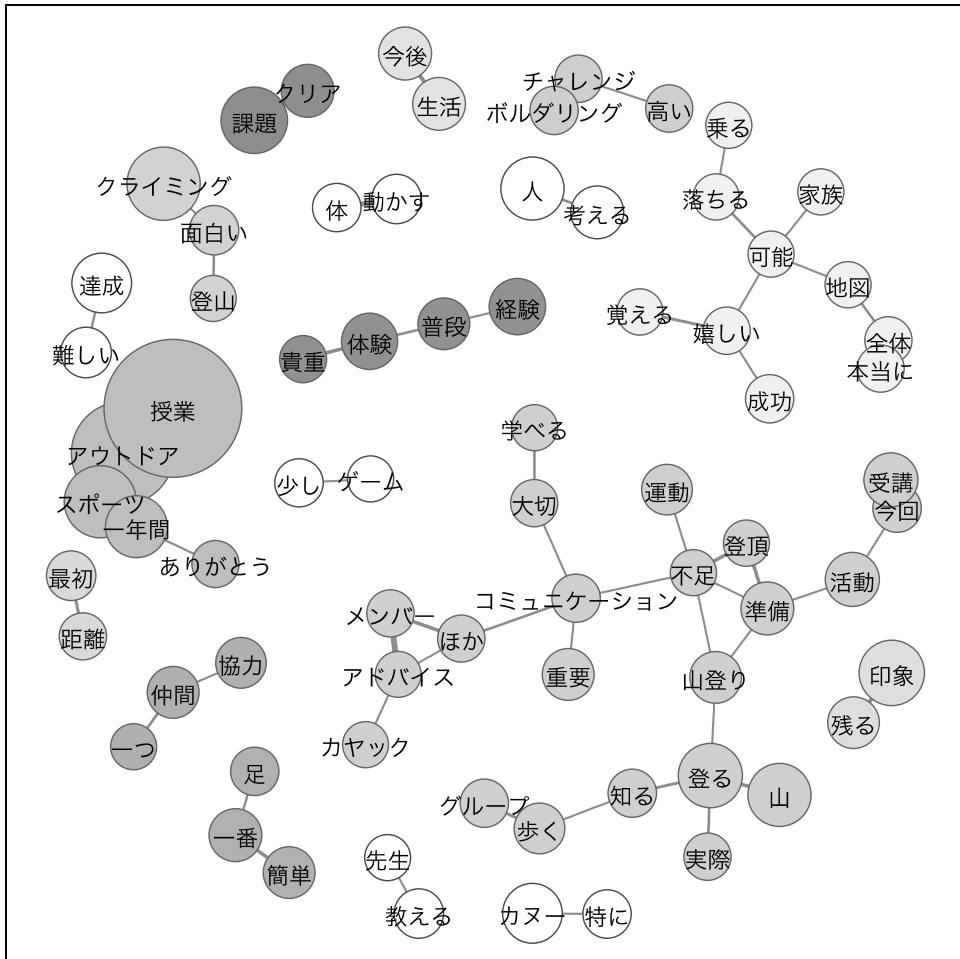


図6 「実習アウトドア」レポートの共起ネットワーク

この結果から、「演習アウトドア」の授業は、まず“普通”“経験”できない“貴重”な“体験”と捉えられていたことがわかる。また授業内容として、“山登り”や“クライミング”が頻出しており、これはアウト・キャンパス・スタディで登山やクライミングを実施したことが影響しているのではないかと推察される。

駿大社会人基礎力との関連においては、“課題”を“クリア”、“達成”が“難しい”、“成功”が“嬉しい”など「実習アウトドア」と比較するとより具体的に「行動に移す力」を表現していると考えられる語が多く出現している。このような学びの実感が、授業アンケートにおける「行動に移す力」の高回答率にもつながったのではないかと推察される。また、“コミュニケーション”を“重要”“大切”と捉え、“メ

ンバー”同士の“アドバイス”や，“仲間”と“協力”することなど、「協働する力」に関連すると考えられる語も多く出現し、これらも授業から学んだ重要なことと認識していることがわかる。その他には，“クライミング”などの活動を“面白い”と感じるだけでなく，“山登り”に関連して“準備”や“不足”などの語が出現しており、「演習アウトドア」でより発展的な内容を展開したことにより、自ら“準備”することの必要性やそれが“不足”していたことの反省が生まれたのではないかと考えられる。このように、「演習アウトドア」のレポートは「実習アウトドア」と比べると，“山”“池”“カヌー”“クライミング”などの実践内容そのものの記述よりも、そこから学んだことに関する記述が多く、その意味で「考える力」が身につく、学生一人一人の学習がより深まっているとも推察される。

IV. まとめ

本研究の目的は、本学の共通教育科目「健康・スポーツ実習」および「健康・スポーツ演習」の種目「アウトドア」の授業を対象に、学生の授業アンケートやレポートから、「アウトドア」の授業が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響を明らかにすることであった。分析の結果、次のことが明らかになった。

1. 授業アンケートの結果、「実習アウトドア」では駿大社会人基礎力の「考える力」「行動に移す力」「協働する力」「総合的な力」の4つの項目で体育科目全体の値を上回る結果となり、特に「行動に移す力」「協働する力」では体育科目全体の値を10ポイント以上上回る結果となった。
2. 授業アンケートの結果、「演習アウトドア」では駿大社会人基礎力の5つ全ての項目で体育科目全体の値を上回る結果となり、特に「考える力」は学生の半数近く、「行動に移す力」は学生の9割以上が成果を実感している結果となった。
3. 「実習アウトドア」の感想文のテキストマイニングの結果、各種の実践的な授業内容が「行動に移す力」が身についたという認識に、グループ学習による話し合いや互いに協力した経験が「協働する力」が身についたという認識につながっていることが推察された。
4. 「演習アウトドア」のレポートのテキストマイニングの結果、各種活動の課題を達成した成功体験等が「行動に移す力」が身についたという認識に、また授業の中で学生が相互にコミュニケーションを取り協力した経験が「協働する力」が身についたという認識につながっていることが推察された。

このように、共通教育科目の「アウトドア」の授業が、大学生の社会人基礎力に

肯定的な影響を及ぼす可能性が示唆された。

今後の課題として、具体的に授業のどの活動や要素が個別の社会人基礎力の育成に結びついたのか、そのプロセスを詳細に検討する必要がある。また、授業の目標として挙げながら成果が見られなかった駿大社会人基礎力の「総合的な力」の育成や、逆に授業目標に挙げてはいなかったが成果が見られた「考える力」について、授業内容を吟味し、より妥当な目標を設定することも含めて検討していく必要があると考える。

引用文献・注

- 1) 社会人基礎力に関する研究会『社会人基礎力に関する研究会』中間とりまとめ 経済産業省，2006。
- 2) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」文部科学省，2012。
- 3) 金子元久「大学教育の再構築 学生を成長させる大学へ」玉川大学出版，2013，11項。
- 4) 星野敏男，金子和正「野外教育入門シリーズ第1巻 野外教育の理論と実践」杏林書院，2011，3項。
- 5) 遠藤浩，北谷崇「大学キャンプ実習の効果に関する研究-自己概念と自己実現の変化から-」野外教育研究7，1994，9-16項。
- 6) 吉田充「キャンプ体験が短期大学生の自尊感情と社会的スキルに与える影響」國學院短期大学紀要24，2007，3-14項。
- 7) 橘直隆，蓬田高正，土方圭「野外運動の授業が学生の生きる力に及ぼす影響」大学体育研究25，2003，19-30項。
- 8) 築山泰典，神野賢治，田中忠道「大学キャンプ実習が『社会人基礎力』に及ぼす有効性の検討」福岡大学スポーツ科学研究40（1），2008，13-26。
- 9) プロジェクトアドベンチャー（PA）とは、厳しい自然の中で行う活動を日常の学校においても活動できるように開発された手法、及びそのような教育的アプローチを提供する団体の名称を指す。主な活動は、遊びやグループでの課題解決などであり、1人では解決できないような肉体的・精神的課題に対し、メンバー1人1人がそれぞれの能力を出しあい、協力しあいながら解決していくアクティビティである。